

平成 29 年度
社会福祉振興・試験センター
社会福祉振興関係調査研究助成金

認定社会福祉士等の資質向上に資する
グループスーパービジョン・モデル
構築に関する研究事業

平成 30 年 3 月
公益社団法人 日本社会福祉士会

平成 29 年度 社会福祉振興・試験センター 社会福祉振興関係調査研究助成金
「認定社会福祉士等の資質向上に資するグループスーパービジョン・モデル
構築に関する研究事業」

報告書目次

はじめに	i
1. 研究目的・方法	1
2. フォーカスグループインタビュー調査の結果と考察	2
(1) インタビューガイド	2
(2) グループスーパービジョンの実施方法	2
(3) グループスーパービジョンを行う際の元となっている理論・研修会	4
(4) グループスーパービジョンについての意識	6
(5) 認定社会福祉士制度におけるグループスーパービジョンへの期待	7
3. 文献サーベイ結果	8
4. まとめ	16
5. 委員名簿	19

はじめに

本報告書は、社会福祉振興・試験センターの助成により実施した「認定社会福祉士等の資質向上に資するグループスーパービジョン・モデル構築に関する研究事業」の平成 29 年度の研究成果をまとめたものである。

2006 年 12 月に公表された社会保障審議会福祉部会報告書「介護福祉士制度及び社会福祉制度のあり方に関する意見」において、職能団体が取り組むこととして「資格取得後の体系的な研修制度の充実や、より専門的な知識及び技能を有する社会福祉士を専門社会福祉士（仮称）として認定する仕組みの検討」が掲げられ、2007 年 12 月の社会福祉士及び介護福祉士法改正法成立時に、参議院において「より専門的対応ができる人材を育成するため、専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」、衆議院において「より専門的対応ができる人材を育成するため、専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」ことが附帯決議された。これを受け、2008 年度から日本社会福祉士会において、「専門社会福祉士研究委員会」が設置され、専門社会福祉士（仮称）の育成並びに認定システムについての検討を重ねられ、2011 年 10 月に第三者機関としての認定社会福祉士認証・認定機構が設立され、認定社会福祉士及び認定上級社会福祉士という社会福祉士における新たな制度が始まった。

認定社会福祉士及び認定上級社会福祉士の検討の中で、時代の変化を背景として、従来の社会福祉士の役割であった福祉の相談援助職者から新しい時代に要求されるソーシャルワークを実践する福祉専門職の役割・機能等が確認された。そして、社会福祉士としての質の向上のためには、OJT や知識・技術の習得のための研修の受講の他にスーパービジョンが必須であることから、認定社会福祉士取得のためにはスーパービジョンを受ける・認定上級社会福祉士取得のためにはスーパービジョンを行うことを必要条件として位置づけた。その認定社会福祉士及び上級認定社会福祉士の取得・更新のためのスーパービジョンについては、専門社会福祉士認定システム構築事業（独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業）、社会福祉士のスーパービジョン体制の確立等に関する調査研究事業（セーフティネット支援対策等事業費補助金社会福祉推進事業）等において、枠組みの策定及びモデル事業を実施し、よりよいスーパービジョンの実施に向けての検討を重ねてきた。

認定社会福祉士制度では、スーパービジョン導入当初から 1 対 1 で行う個人スーパービジョンとグループスーパービジョンを認める方向でスーパービジョン実施要綱上に両者を明記してきたが、スーパービジョンの枠組み、モデルの実施、マニュアルの策定については、個人スーパービジョンから進められた。2013 年度から認定社会福祉士制度上のスーパービジョンを実施できるスーパーバイザーの名簿登録が開始されたが、そこで認められたスーパービジョンは個人スーパービジョンのみとなっており、グループスーパービジョンの実施については留保されている。

我が国ではスーパービジョン自体がまだまだ十分に浸透しているとはいえ、長年実践を重ねているベテランの社会福祉士であってもスーパービジョンを受けたことがないという場合も多く、その定義やとらえ方も多様であり、個人スーパービジョンの導入においても手続や書式等の枠組み設定や実施マニュアルの整備が必要であった。2013 年度のスーパーバイザー登録開始以降、

個人スーパービジョンの実施は認定社会福祉士の仕組みの中で少しずつではあるが進展している。

一方で、グループスーパービジョンの導入については、グループとしての長所・短所の他に、事例検討やカンファレンスとの混同やピアスーパービジョンとの関係など様々な課題が想定されている中で、教育現場や実践現場では実際にグループによるスーパービジョンが実施されているという状況もあり、認定社会福祉士制度のスーパービジョンの中にグループスーパービジョンを認めることへの要望も出されていた。そこで、認定社会福祉士認証・認定機構では、グループスーパービジョンを認定社会福祉士制度の中に導入すべく検討を進めることとなった。

検討を進めるにあたっては、認定社会福祉士認証・認定機構のスーパービジョンの実施に係る企画運営委員会を研究母体として、日本社会福祉士会が社会福祉振興・試験センターより研究助成を受け実施することとした。

今回の研究では、そもそもわが国ではグループスーパービジョンがどのように認識され、実施されているかを明らかにするために、フォーカスグループインタビュー調査による実態把握、文献調査を中心に行った。

本研究の結果が、わが国のソーシャルワークの質の向上に寄与し、現場の社会福祉士、認定社会福祉士、上級認定社会福祉士、研究者の方々の参考になれば幸いである。

認定社会福祉士認定・認証機構
スーパービジョン実施に係る企画運営委員会

1. 研究目的・方法

2007年12月の「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律案」に対する附帯決議において、専門社会福祉士の仕組みについて検討すべきことが決議された。日本社会福祉士会では2008年度より専門社会福祉士研究委員会を設置、職能団体、教育団体、経営者団体等の関係団体等の協力を得ながら制度検討を開始し、2011年度にはその成果を踏まえ関係団体等からなる第三者機関の設置のための設立準備会が組織され、2011年10月30日に認定社会福祉士認証・認定機構が設立された。

2012年度からは研修認証の開始及び経過措置としての特別研修の開催、2013年度からは認定社会福祉士の認定審査及び経過措置期間のスーパーバイザー登録が開始され、2017年4月1日現在で、484名の認定社会福祉士を輩出している。また、認定社会福祉士及び認定上級社会福祉士（以下、「認定社会福祉士等」という。）の取得の必須要件であるスーパービジョンを実施する登録スーパーバイザーは493名である。

認定社会福祉士等になるためには、スーパービジョン実績が必須である。このため、認定社会福祉士等制度の開始により個別スーパービジョンについては認知され始めたが、グループスーパービジョンについてはわが国ではいまだ十分に浸透しているとはいえない。また、グループスーパービジョンと称して実施されている中にも、実際にはグループスーパービジョンとピアスーパービジョンの違いも明確に理解されているとはいえない状況も見られる。

グループスーパービジョンは、登録スーパーバイザー数が、いまだ十分とはいえない我が国において、スーパービジョンを効率的に実施するために重要な方法であり、今後認定社会福祉士等の資質を向上させるための機会保障には、グループスーパービジョンの導入を図っていくことが有効であると期待をされている。一方で、その特性、長所・短所を押さえた適切な運用方法をとることが必要であり、導入の前提としてそれらについて検討する必要があると考える。

ゆえに本研究では、①認定社会福祉士認定・認証機構が実施するためのグループスーパービジョンのモデル事業構築、②北米等諸外国のグループスーパービジョン理論によるグループスーパービジョン教育方法の検討を行うことにより、認定社会福祉士等の資質向上に資することを目的とする。

本研究は以下の方法で行った。

(1) フォーカスグループインタビュー調査

東京と大阪の2か所で、教員グループと現場グループそれぞれ5名程度のフォーカスグループインタビュー調査を行った。調査方法については、参加者の同意を得たうえで録音し、発言をカテゴリー化して、分類を行った。

(2) グループスーパービジョンに関する文献調査

グループスーパービジョンの文献調査については、今年度についてはわが国におけるグループスーパービジョンの文献をCiNiiから検索し、65件の文献を抽出した。これらを年代ごとに分け、その傾向を分析中である。

2.フォーカスグループインタビュー調査の結果と考察

(1) インタビューガイド

下記のインタビューガイドを事前に送付し、各項目に自分のグループスーパービジョン実施状況等を記入し、インタビュー調査実施日に持参してもらった。また、グループスーパービジョン実施に際して使用している書式についても集めた。

表1 インタビューガイド項目

	インタビュー項目
1	あなたがおもつグループスーパービジョンのイメージはどのようなものですか。
2	あなたはグループスーパービジョンをどのように行っていますか。 (どれくらい、何をしていますか)
3	あなたの行うグループスーパービジョンの元になっている理論あるいは方法は何ですか。 (○○先生から教わった、××研修会で実施していたも可、複数回答も可)
4	個人スーパービジョンとグループスーパービジョンとを行う際に意識していることに違いはありますか。 (グループスーパービジョンを行う際に特に意識しているのはどのようなことですか。)
5	グループスーパービジョンを行うに際してどのような書類・書式を使用していますか。 (実際に使用している書類についてご持参をお願いします。)
6	認定社会福祉士制度のグループスーパービジョンを導入することについて、期待することとは何ですか。

上記のインタビュー項目から、①グループスーパービジョンの実施方法、②グループスーパービジョンを行う際の元となっている理論・研修会、③グループスーパービジョンについての意識、④認定社会福祉士制度におけるグループスーパービジョンへの期待の4点について、分析を行った。

(2) グループスーパービジョンの実施方法

2会場でのグループフォーカスインタビューデータより、何らかの「方法」について語っている部分を抽出し、カテゴリーを生成した。それらに属するデータ数を比較したものが表2である。その結果、教員グループと現場グループではいくつかの着眼点に相違があった。

1) 現場でのグループスーパービジョン実践

現場グループでは、「対象・人数・時間・期間」についてのサブカテゴリーは存在しなかった。一方で、「実施上の工夫」についてのサブカテゴリーは存在する。このことから、現場グループの実践しているグループスーパービジョンは、スーパービジョンの理論や機能を活用しているが、グループスーパービジョンそのものではない可能性があると考えられた。実際、現場グループのインタビューには、「スーパービジョンの機能を活用して」とか、「グループスーパービジョンと言えるかどうか分からないが」などの発言が多く見られた。

2) 事例検討との相違点と関連

教員グループでは、「事例検討との相違点と関連」についてのデータ数が比較的多い一方で、現場グループでは少ない。しかし、現場グループにおいて、組織内外ともに「スーパービジョン機能の活用」に関するサブカテゴリーが存在する。このことから、スーパービジョンと事例検討の相違点や関連を明確にすることは、現場にスーパービジョンを取り入れていく上で有効である可能性があると考えられた。

3) 記述システム・省察（リフレクション）

教員グループでは、「記述システム・省察（リフレクション）」に関するデータが多く見られた。またそれは、記述システムそのものが重要であるだけでなく、それがいかに省察（リフレクション）につながるかという点が重要視されていた。しかし現場グループでは、「記述システム・省察（リフレクション）」に関するカテゴリーが見られなかった。一方、現場グループでは、「組織内の課題と解決方法」に関するデータが非常に多く見られた。これらのことから、スーパービジョンの記述システム並びに省察（リフレクション）を促進できる方法の確立により、スーパービジョンが組織内の課題解決に資する可能性が高まると考えられた。

今後は、スーパービジョンと「事例検討との相違点と関連」を明らかにすること、「記述システム・省察（リフレクション）」の具体化が課題である。

表2 グループフォーカスインタビューで抽出されたカテゴリーとデータ数比較：方法

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
1. グループスーパービジョンの方法	個別とグループの共通点と相違点	9	4
	対象・人数・時間・期間	22	0
	報告の方法・内容	8	6
	実施上の工夫	27	17
	実践の基盤となる理論・経験	3	3
	グループの構成・構造	1	2
2. スーパービジョンの方法	事例検討との相違点と関連	16	2
	コンサルテーションとの関連	2	5
	組織内スーパービジョンと組織外スーパービジョンの相違点	6	3
	実施上の工夫	0	5
3. 記述システム・省察（リフレクション）の重要性	場面の再構成や振り返り・言語化、場面・内容の共有によるリフレクションの深化	19	0
4. 組織内における課題解	スーパービジョン機能の活用	3	3

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
決の方法	組織内の課題と解決方法	2	4 4
5. 組織外における課題解決の方法	スーパービジョン機能の活用	0	2
	多様な解決方法	1 0	1 0

(3) グループスーパービジョンを行う際の元となっている理論・研修会

スーパービジョンの元となっている理論・研修会については、表3に示したとおりである。表では明らかにしていないが、東京会場と大阪会場、現場グループと教員グループでは回答内容に大きな相違があった。

東京会場と大阪会場では参加した研修会、師事した教員、参考にした著書等において、共通項が少なかった。教員グループでは、グループワーク関連の本から学んだという回答が多かった。実践している理論についても、明確なものがなく、我が国においてグループスーパービジョンの理論的背景が明確ではないのではないかと考察できる。

現場グループの場合は、教員グループよりも誰の研修を受けたかによって、グループスーパービジョンの基盤が多岐にわたっていた。東京会場の現場グループで「研究者著書等で学んだ」という意見が見られず、グループスーパービジョンの理解についても、この理論をどうスーパービジョンやグループスーパービジョンで実践するのかということが不明確な回答もあった。また、ソーシャルワークの理論、精神分析の理論をスーパービジョンで取り入れているという回答も多かった。

表3 フォーカスグループインタビューで抽出されたカテゴリーとデータ数比較：理論・研修会

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
1. 研究者著書等から学んだ	R. W. トーズランド	2	0
	W. シュワルツ	1	0
	ショーマン	1	0
	G. コノプカ	1	0
	ノーマラング	1	0
	ライバス	1	0
	A. カデューシン	1	0
	岩間伸之	0	4
	福山和女	0	1
	植田寿之	0	1
	渡部律子	0	2
	白木裕子	0	1
	H・スペクト	0	1
	土居健郎	0	1
	C. ジャーメイン	0	1
	A. マズロー	0	2
		窪田暁子	3
	荒川義子	2	

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
2. 研修会・講義・実際のスーパービジョンから学んだ	岩田康夫	1	0
	大利一雄	1	0
	久保紘章	3	0
	黒川昭登	4	0
	奥川幸子	1	2
	東大精神科熊倉：精神分析研究会	1	0
	京都大学杉万俊夫：グループダイナミズム	1	0
	福山和女：FK モデル	0	5
	菱川愛：ソリューションフォーカス	0	1
	横田碧	0	1
	菱川愛：アンドリュウ・ターネル	0	1
	高橋学	0	2
	乾末佑	0	1
	福山和女：グループスーパービジョン	0	1
	渡部律子	0	2
	米川和雄：スクールソーシャルワークのSV	0	1
	宮崎清恵	0	2
	白木裕子	0	1
	野中猛	0	1
	MSW 協会の研修会	0	1
認定社会福祉士認証・認定機構の研修会	0	1	
3. 実践している理論	心理教育的	1	0
	ソリューションフォーカス	0	1
	システム理論	0	4
	ナラティブ・アプローチ	0	2
	危機介入	0	1
	家族造形法的な動きをグループスーパービジョンに取り入れている	1	0
	エコロジカルモデル	0	3
	バイオサイコソーシャル	0	1
	ナラティブ	0	2
	多様なモデル・アプローチ	0	1
	家族システム論	0	1
	サインズ オブ セーフティアプローチ	0	1
4. その他	グループスーパービジョンの固有方法論を用いてうまくできていない	0	1
	グループダイナミズムとは何かをここ数年考えている	1	0

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
4. その他	小集団の精神分析的なものに興味がある	1	0
	グループスーパービジョンには相互交流、メンバー間の展開がある	1	0
	社会構成主義的理論は重要だと思う	1	0
	個を見ること、集団を見ることがグループスーパービジョンの基本	1	0
	グループスーパービジョンの論文は少ない	1	0

(4) グループスーパービジョンについての意識

2会場でのフォーカスグループインタビューデータより、グループスーパービジョンを行う上で「意識」している部分について語っている部分を抽出し、カテゴリーを生成した。それらに属するデータ数を比較したものが表4である。

その結果、教員グループと現場グループではいくらかの着眼点に相違があった。

教員グループで特に多くみられたのは、【スーパービジョンを行う上での意識】の「スーパービジョンの機能」、「グループスーパービジョンの機能」、「個別スーパービジョンとの関係」、【スーパーバイザー、スーパーバイザーの役割】の「スーパーバイザーの選択」であり、教員グループのみに見られたのは、「グループワークとの関係」、「分野間格差」であった。一方、現場グループで多く見られたのは、「スーパーバイザー、スーパーバイザーの役割」の「スーパーバイザーの役割」であり、現場グループのみに見られたカテゴリーは存在しなかった。

このことから、教員グループは、グループスーパービジョンを実施する中で、スーパービジョンが持っている機能、グループスーパービジョンが持っている機能を意識しながら、状況によっては個別スーパービジョンとグループスーパービジョンを使い分けながらスーパービジョンを実施していると考えられる。また円滑にグループスーパービジョンが実施できるように、グループの設定（スーパーバイザーの選択）についても意識しながら、スーパービジョンを実施していると考えられる。現場グループは、スーパービジョンを実施するにあたり、自身がスーパーバイザーとしてどのような役割を担っているのかを意識してスーパービジョンを実施していると考えられる。

今後、グループスーパービジョンの枠組みを考えるにあたり、どのような機能があるのか、グループを形成する上でどのような点に留意すべきなのか、グループスーパービジョンにおけるスーパーバイザーの役割が何なのかを、検討し具体化していくことが課題であると言える。

表4 フォーカスグループインタビューで抽出されたカテゴリーとデータ数比較：意識

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
1. スーパービジョンを行う上での意識	スーパービジョンの機能	12	9
	グループスーパービジョンの機能	24	12
	グループワークとの関係	1	0
	事例検討との関係	1	3
	個別スーパービジョンとの関係	14	3
	分野間格差	2	0

2. スーパーバイザー、スーパーバイザーの役割	スーパーバイザーの役割	1 1	5 1
	スーパーバイザーの選択	1 4	2

(5) 認定社会福祉制度におけるグループスーパービジョンへの期待

2会場でのグループフォーカスインタビューデータより、何らかの「期待」について語っている部分を抽出し、カテゴリーを生成した。それらに属するデータ数を比較したものが表5である。

その結果、教員グループと現場グループではいくつかの着眼点の相違があった。

教員グループで特に多くみられたのは、「機構への期待」の「手続きの方法・しくみ」であり、教員グループのみにみられたのは「記述力の向上」であった。一方、現場グループで特に多くみられたのは、「グループ編成の仕方・組織内外」「グループ実施方法」であり、現場グループのみにみられたサブカテゴリーは存在しなかった。

このことから、教員グループはグループスーパービジョンを行う枠組をどのように形成するのかに期待が高く、現場グループはどのようなグループスーパービジョンを行うのかという内容への期待が高いことがうかがわれる。また、教員グループのみに「記述力の向上」がみられたことは、グループスーパービジョンにおいて記述の必要性を認識している発言と捉えることができる。

今後は、教員・現場いずれからも多く出されていた「グループ実施方法」と「機構への期待」の「手続き方法・しくみ」の内容の具体化をはかることが課題である。

表5 グループフォーカスインタビューで抽出されたカテゴリーとデータ数比較：期待

カテゴリー	サブカテゴリー	教員	現場
1. グループスーパービジョンへの期待	個別とグループの違い	4	2
	グループへの期待	5	9
	グループへの危惧	2	1
2. スーパービジョンそのものへの期待	スーパービジョンへの期待	2	4
3. 記述システム	記述力の向上	3	0
	記述のしくみ	3	2
4. グループスーパービジョンの枠組	エリア毎のシステム	1	1
	グループ編成の仕方・組織内外	9	1 2
	グループ実施方法	3	2 0
5. 機構への期待	手続き方法・しくみ	2 8	1 5
6. 実施者への期待	スーパーバイザーへの期待	1	3
	スーパーバイザーへの期待	4	3

3. 文献サーベイ結果

2018年9月から10月にかけて、CiNii Articlesで、「グループスーパービジョン」「グループ」「スーパービジョン」で検索を行い、本研究の内容に沿っているものを抽出した結果、65件であった。

表6 グループスーパービジョン文献サーベイ

文献		著者	出典
1	調査報告 サポートグループリーダーによる認知症家族介護者を支援するサポートグループの継続的实施に向けた一考察—米国アルツハイマー協会ニューヨーク市支部の研修を事例に— A Study on Long Term Support Groups for Dementia Caregivers Led by Support Group Leaders: The Example of the Training Program of Alzheimer's Association New York City Chapter	中島 民恵子	社会福祉学 58(1), 142-152, 2017
2	紀要論文 リーダーケアマネジャーのスーパービジョンにおける意義と課題	野村 豊子 照井 孫久 本山 潤一郎	日本福祉大学社会福祉論集 (135), 1-21, 2016 日本福祉大学社会福祉学部
3	特集 特集 実践を究める 臨床力を育むスーパービジョン(3)スーパービジョンの展開と技法：グループスーパービジョンの事例から	高橋 学	ケアマネジャー 18(3), 68-75, 2016 中央法規出版
4	相模原市南区主任ケアマネジャー勉強会事例検討道場 New：事例検討の技術向上めざして「死にたい」と言う拒食症の人 他機関の協力得られず苦しむケアマネジャー 過去事例を振り返りトラウマと向き合うグループスーパービジョン(後編)	相模原市南区主任ケアマネジャー勉強会	月刊ケアマネジメ ント 26(11), 46-51, 2015 環境新聞社
5	相模原市南区主任ケアマネジャー勉強会事例検討道場 New：事例検討の技術向上めざして「死にたい」と言う拒食症の人 他機関の協力得られず苦しむケアマネジャー 過去事例を振り返りトラウマと向き合うグループスーパービジョン(前編)	相模原市南区主任ケアマネジャー勉強会	月刊ケアマネジメ ント 26(10), 44-50, 2015 環境新聞社

文献		著者	出典
6		さあ、はじめよう! ストレngthモデルのグループスーパービジョン (事例検討道場 Special: ストレngthモデル)	小澤 温 月刊ケアマネジメント 26(9), 53-55, 2015 環境新聞社
7		事例検討道場 New: 事例検討の技術向上めざして 60代の夫を 50代の妻が介護 2人とも糖尿病夫は離れに住み、妻は訪問看護を拒否 対応に悩むケアマネに次の一手は?	グループスーパービジョンの会 月刊ケアマネジメント 26(6), 46-51, 2015 環境新聞社
8		事例検討道場 New: 事例検討の技術向上めざして 認知症と糖尿病があり、受診しない独居の女性 近所とトラブル、ケアマネには怒鳴り散らす 遠方の息子は「かかわりたくない」 ケアマネを支えるグループスーパービジョン	(株)トータルサポート・ノダ事例検討会 月刊ケアマネジメント 26(3), 50-57, 2015 環境新聞社
9	紀要論文	グループ・スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの役割と課題——社会福祉協議会における職場内研修の実践から——会津大学短期大学部研究年報	木村 淳也 会津大学短期大学部研究年報 (72), 95-106, 2015 会津大学短期大学部社会福祉学科
10		グループSVの機能をもつ活動支援 支援者が「ともに学びあう場」としての事例検討会: 「野中塾」の場合 (特集 精神障害リハビリテーションにおけるスーパービジョンの活用)	上原 久 精神障害とリハビリテーション = Japanese journal of psychiatric rehabilitation 19(1), 40-45, 2015
11		グループSVの機能をもつ活動 保健師同士の学びを促進する場としての, 自主的な事例検討会での体験: 三多摩精神科看護研究会の活動を振り返って (特集 精神障害リハビリテーションにおけるスーパービジョンの活用)	新村 順子 精神障害とリハビリテーション = Japanese journal of psychiatric rehabilitation 19(1), 36-39, 2015
12	研究報告	開放観察時に副看護師長が実践する臨床判断	服部 朝代 山下 亜矢子 日本精神保健看護学会誌 24(2), 1-10, 2015 日本精神保健看護学会
13		事例検討道場 New: 事例検討の技術向上めざして 本人は気力が低下。家族はヘルパー拒否 3カ月で要支援 2→要介護 3と急激にダウンし脱水で救急搬送 ケアマネはどうすべきだったのか?: 足利市グループスーパービジョンによる事例検討	T子 石田 敏美 小川 佳子 月刊ケアマネジメント 25(1), 40-45, 2014-01 環境新聞社

文献		著者	出典
14	論文	主任介護支援専門員のスーパービジョン実践に関する研究：成長の要因と実践方法	小松尾 京子 ソーシャルワーク学会誌 28.29(0), A1-A11, 2014 日本ソーシャルワーク学会
15	演習	演習 グループを活用したピアスーパービジョン(特集 平成 25 年度「生活保護担当ケースワーカー全国研修会」から(後編))	植田 寿之 生活と福祉 (690), 11-14, 2013 全国社会福祉協議会
16	紀要論文	主任介護支援専門員のスキルアップ研修の評価	安藤 智子 池邊 敏子 千葉科学大学紀要 6, 153-167, 2013 千葉科学大学
17	紀要論文	新人精神保健福祉士養成の現状と課題 第一報「比較的経験の浅い精神保健福祉士の転退職について」	今井 博康 高志 博明 北翔大学北方圏学術情報センター年報 = Bulletin of the Northern Regions Academic Information Center, Hoku-sho University 5, 31-41, 2013 北翔大学
19	紀要論文	介護過程の教育方法に関する一考察：長期実習とグループスーパービジョンを通じて	柳澤 利之 土永 典明 荒木重嗣 新潟青陵大学短期大学部研究報告 (42),141-152, 2012-05 新潟青陵大学短期大学部
20	研究ノート	グループスーパービジョン経験者の変化のプロセスと要因に関する研究：成長を支える視点から	小松尾 京子 日本福祉大学社会福祉論集 (126), 91-105, 2012 日本福祉大学
21	紀要論文	知的障害者のグループホーム従事者による利用者のコンピテンス評価の課題：全国調査による一人暮らしのニーズに対する阻害要因から	寺島 正博 東京福祉大学・大学院紀要 2(2), 133-140, 2012 東京福祉大学・大学院
66	紀要論文	グループ・スーパービジョン研修が参加者にもたらす影響：介護支援専門員に対する連続研修の取り組みから	福富 昌城 坂下 晃祥 塩田 祥子 花園大学社会福祉学部研究紀要 20, 9-19, 2012 花園大学社会福祉学部

文献		著者	出典
22	記事	清水 龍子	認知症ケア最前線 35, 63-66, 2012 QOL サービス
23	研究報告	橋本 眞紀	甲南女子大学研究 紀要. 看護学・リハ ビリテーション学 編 = Studies in nursing and reha- bilitation (5), 141- 148, 2011 甲南女子大学
67	紀要論文	塩田 祥子 植田 寿之	花園大学社会福祉 学部研究紀要 19, 127-140,2011 花園大学社会福祉 学部
24	記事	宮本 真巳	精神科看護 37(11), 5-10, 2010 精神看護出版
68		塩田 祥子 植田 寿之	花園大学社会福祉 学部研究紀要 18, 173-182,2010 花園大学社会福祉 学部
26		本間 明子	愛知学泉大学コミ ュニティ政策学部 紀要 (12), 101-117, 2009、知学泉大学コ ミュニティ政策学 部
27	紀要論文	木下 百合子	大阪教育大学社会 科教育学研究 (8), 11-20, 2009 大阪教育大学社会 科教育学会
28	論文	三好 明夫	人間関係学研究 16(1), 1-12, 2009 一般社団法人 日本 人間関係学会

文献		著者	出典
29		初任者精神保健福祉士におけるピア・スーパービジョンの考察--「グループワーク」の二事例を通して	末崎 政晃 久留米大学大学院 比較文化研究論集 (22), 45-58, 2008 久留米大学大学院 比較文化研究科
30		医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョン機能に関する研究--3年目の実態報告とエンパワメント効果に影響を及ぼす要因	笠松 理恵子 美濃 由紀子 大迫 充江 日本看護学会論文 集 精神看護 39, 164-166, 2008 日本看護協会出版 会
31	実践報告	実践報告 重度知的障害者の居住支援--パーソン・センタード・プランニングにアクティブサポートモデルを導入したグループホームにおける支援	古井 克憲 社会福祉学 48(2), 92-105, 2007 一般社団法人日本 社会福祉学会
32		ピアグループ・スーパービジョンの可能性に関する一考察--精神保健福祉士の卒後継続研修の実践から	末崎 政晃 大西 良 大岡 由佳 久留米大学大学院 比較文化研究論集 (21), 107-121, 2007 久留米大学大学院 比較文化研究科
33		医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョン導入の実態--触法精神障害者の事例検討を通じて(第1報)	美濃 由紀子 佐藤 るみ子 高崎 邦子 日本看護学会論文 集 精神看護 38, 150-152, 2007 日本看護協会出版 会
34		生活保護・社会福祉学習 私の一冊『グループスーパービジョンによる生活保護の事例研究--公的扶助の実際』	岡田 征司 公的扶助研究 (43), 38-41, 2006 全国公的扶助研究 会
35	紀要論文	グループ・スーパービジョンという経験：バイザーとバイザー、双方の経験に注目して	尾崎 新 志村 道代 西脇 千佳 コミュニティ福祉 学部紀要 8, 55-70, 2006 立教大学
36	紀要論文	福祉学生のストレスに関する研究	大西 良 藤島 法仁 占部 尊士 鋤田 みすず 矢島 雅子 保坂 恵美子 久留米大学文学部 紀要, 社会福祉学科 編 6, 47-66, 2006 久留米大学
37	紀要論文	「出会い」を中心とした学習過程についての考察：グループ・スーパービジョンへの取り組みを通して	今堀 美樹 大阪体育大学健康 福祉学部研究紀要 3, 13-26, 2006

文献		著者	出典
38	紀要論文	社会福祉機関におけるスーパービジョン実践研究	坂本 雅俊 長崎国際大学論叢 6, 135-141, 2006 長崎国際大学
39	研究報告	精神看護領域の事例検討会における事例提供という体験の構造	小谷野 康子 日下 和代 熊地 美枝 高濱 圭子 板山 稔 宮本 真巳 日本精神保健看護 学会誌 14(1), 53- 62, 2005 日本精神保健看護 学会
40	特集	グループ・スーパービジョンの意義 (特集:グループと心理臨床)	小谷 英文 臨床心理学 4(4), 497-504, 2004 金剛出版
41		臨床看護グループスーパービジョンの効果--個人インタビューの分析から (特集 看護提供者を支えるためにすべきこと) -- (臨床看護スーパービジョン導入の試み--自信と他者からの承認を看護の質向上につなげる)	岩崎 朗子 池田 紀子 看護管理 14(6), 468-472, 2004 医学書院
42		初任者精神保健福祉士のスーパービジョンに関する考察 ~初任者精神保健福祉士へのグループインタビュー調査からの検討~	松永 宏子 井上 牧子 上智大学社会福祉 研究 (28), 1-13, 2004 上智大学文学部社 会福祉学科
43		自主企画 研修会 1 統合失調症患者の家族のアセスメント--公開グループスーパービジョン (第 39 回日本精神保健福祉士協会全国大会/第 2 回日本精神保健福祉学会報告集)	遠藤 優子 熊谷 由起子 廣江 仁 精神保健福祉 34(3),253-257, 2003 日本精神保健福祉 士協会
45	論文	実習後グループによる学生の省察を促す指導プロセスの展開--グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析	坪内 千明 社会福祉学 43(2), 102-112, 2003 一般社団法人日本 社会福祉学会
46		Care Article グループスーパービジョンの新しい試み--コ・スーパーバイザー体制の導入と役割	茨木 美穂 西 章男 明石 二郎 総合ケア 12(11), 42-45, 2002 医歯薬出版
47		逐語記録によるグループ・スーパービジョンに関する考察	益満孝一 九州看護福祉大学 紀要 4(1), 211-217, 2002 九州看護福祉大学

文献		著者	出典
48	特集論文 OGSV(奥川グループスーパービジョン)モデルを用いた事例検討の方法--実践する力を育む事例の活用の仕方 (特集:ソーシャルワークにおける技術演習の課題)	齊藤 順子	ソーシャルワーク研究 28(3),196-203, 2002 相川書房
49	紀要論文 グループ・スーパービジョン研究	荻野 源吾	大分大学教育福祉科学部研究紀要 23(2),307-316, 2001 大分大学
50	私たちの実践--自主勉強会を組織し定期的にスーパーバイズを受ける,ビデオを活用したグループ・スーパービジョンで実力向上を図る (特集 事例検討のススメ)		ケアマネジャー 2(9), 28-31, 2001 中央法規出版
51	各論 「実習グループスーパービジョン」におけるリンケージの概念の応用 (特集 精神保健福祉士の養成教育)	松本 すみ子	精神保健福祉 32(1), 13-17, 2001 日本精神保健福祉士協会
52	論文 福祉教育実践方法としての体験学習における学習援助者役割に関する考察	佐藤 陽	日本の地域福祉 15, 63-72, 2001 日本地域福祉学会
53	スーパービジョンを受けることによる気付き : 1年間のグループ活動を通じて	細貝 菜穂子	病院・地域精神医学 = The Japanese journal of hospital and community psychiatry 42(4), 439-442, 1999-12-25
54	スーパービジョンを受けることによる気付き : 1年間のグループ活動を通じて What I found receiving the supervision	細貝 菜穂子 濁川 和彦 柳 義子 斉藤 朋奈 丸山 公男	病院・地域精神医学 = The Japanese journal of hospital and community psychiatry 42(3), 264-265, 1999
55	公的機関における家族療法グループスーパービジョンの制度化--ピア・グループスーパービジョンによる児童相談所専門職のエンパワーメント	横田 恵子	地域福祉研究 (26), 83-94, 1998 日本生命済生会社会事業部
56	グループスーパービジョンの実際 (特集 養護施設のスーパービジョン)	加藤 純	児童養護 28(2), 27-30, 1997 全国社会福祉協議会全国児童養護施設協議会

文献		著者	出典
57		大学の実習指導におけるピア・グループ・スーパービジョンの一考察：グラウンデッド・セオリーによる概念形成の試み	片岡 礼子 上智大学社会福祉研究 (20), 67-70, 1996 上智大学文学部社会福祉学科
58	研究論文	知的障害関係施設におけるスーパービジョン評定尺度の開発とその有効性の検討	生川 善雄 北沢 清司 新堀 裕二 東海大学健康科学部紀要 2, 21-27, 1996 東海大学
59	原著論文	精神看護における継続教育の方法論に関する研究：事例検討会の分析から	宮本 真巳 小宮 敬子 広瀬 寛子 山村 礎 武井 麻子 日本精神保健看護学会誌 4(1), 1-12, 1995 日本精神保健看護学会
60		グループ スーパービジョンの経験	野林伸子 心理臨床 5(3),187-191, 1992
61	特集論文	造形法を用いたグループスーパービジョン (事例研究の方法<特集>)	浅野 正嗣 ソーシャルワーク研究 17(2), p107-113, 1991 相川書房
62	紀要論文	SYMLOG を用いたグループ・スーパービジョンの試み	岡 知史 上智大学社会福祉研究 (12), 2-39, 1988 上智大学文学部社会福祉学科
63		グループ・スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの心の変遷	松瀬 喜治 空井 健三 中京大学文学部紀要 23(3・4), p59-72, 1988 中京大学文学部
64		グループワーク・サービスにおけるスーパービジョン (グループワーク<特集>)	前田 ケイ 公衆衛生 45(8), p607-611, 1981 医学書院
65	紀要論文	心理劇によるグループ・スーパービジョン	深山 富男 大谷学報 47(4), 1-19, 1968 大谷学会

4. まとめ

認定社会福祉士認証・認定機構では、個人スーパービジョンに加えてグループスーパービジョンを認定社会福祉士制度の中に導入すべく検討を進めている。平成 29 年度、社会福祉振興・試験センターの助成により、認定社会福祉士等の資質向上に資するグループスーパービジョン・モデル構築に関する研究事業を実施することができ、モデルの構築に向けて検討が重ねられている。検討を進めるにあたっては、認定社会福祉士認証・認定機構の委員会の一つであるスーパービジョンの実施に係る企画運営委員会を研究母体として実施した。

認定社会福祉士制度におけるスーパービジョンは、ソーシャルワーク・スーパービジョンであり、そこでは、スーパービジョン過程、専門職倫理、価値観、態度、技術、知識等が基盤となっている。現在、認定社会福祉士制度におけるスーパービジョンとして提示されている個人スーパービジョンは、スーパーバイザーとスーパーバイジーの二者関係のコミュニケーションを基とする。具体的には、職場の上司と部下の関係の場合もあるが、熟達した専門職やソーシャルワーク・スーパービジョンに精通した教育関係者と経験年数の比較的浅い専門職間を基本として行われる。さらに、スーパーバイザーとスーパーバイジーは、相互に学び合うものとしての関係性が重要となる。

認定社会福祉士認証・機構のスーパービジョンの特徴は、具体的に以下のように述べられている。①スーパービジョンの手順や使用する様式を指定し、一定の枠組みの中で実施する。②事例検討とは異なり、事例を評価・検証するのではなく、事例に取り組むスーパーバイジーの価値、知識、技術に焦点をあてる。③スーパービジョンを 1 年間に 6 回行うことが基準である。④スーパーバイザーとスーパーバイジーはスーパービジョンを行う前に 1 年間の契約をする。⑤個人スーパービジョンが原則となる。⑥スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係は、職場内／職場外、同じ専門分野／異なる専門分野を問わない。⑦スーパーバイザーは機構への登録制であり、スーパービジョンを受けたい社会福祉士が、登録されたスーパーバイザーに依頼して契約した上でスーパービジョンを行う。⑧1 年間に 6 回受けることでスーパービジョン実績 2 単位、5 年間行うことで認定社会福祉士申請（通常ルート）に必要な 10 単位になる。なお、5 年の間、スーパーバイザーは同じ者である必要はない。

本年度の研究では、上述の認定社会福祉士認証・機構の個人スーパービジョンに加えて、新しく別の形態であるグループスーパービジョンを構築するために、わが国におけるグループスーパービジョンの認識と理解の現状について、二種の研究方法により検討を行った。第 1 に、熟達した実践者と教育・研究関係者双方に対してのフォーカスグループインタビュー調査であり、第 2 に、日本におけるグループスーパービジョン（スーパービジョン全体を含む）に関する文献調査である。

はじめに、フォーカスグループインタビューの分析結果から、以下の 4 点が示された。

第 1 点として、グループスーパービジョンの実施方法に関して、スーパービジョンと事例検討の相違点や関連の明確化は、現場にスーパービジョンを取り入れていく上で有効である可能性が示唆された。また、同時に、スーパービジョンの記述システム並びに省察（リフレクション）を促進できる方法の提示とその確立は、スーパービジョンに関して、組織内の課題解決に資する機能や役割を果たすことと連動する可能性も示された。

第2点として、グループスーパービジョンを行う際の元となっている理論・研修会に関して、総じてグループスーパービジョンの理論的背景が明確ではないことが考察された。過去に参加した研修会の担当者の影響は挙げられているが、その理論的背景と実践への応用については不明確な回答が示されていた。現場ではスーパービジョンの理論や機能を活用し、グループスーパービジョンとして実施しているが、「グループスーパービジョンと言えるかどうか分からない」などの発言も多く見られた。実施・体験しているグループスーパービジョンと言われているものが、グループスーパービジョンそのものではない混乱した状態である可能性も示されていた。

第3点として、グループスーパービジョンについての意識に関して、フォーカスグループの結果では、教員グループと現場実践者グループでの着眼点の相違が示されている。

両グループで比較すると、前者において、スーパービジョン・グループスーパービジョンの機能、個別スーパービジョンとの関係が着目され、グループワークとの関係や分野間格差に関しては、後者では挙げられていない。また、両グループでスーパーバイザー、スーパーバイジーの役割について着目されているが、前者ではスーパーバイジーの選択が挙げられているのに対し、後者では、スーパーバイザーの役割に着目されている。

グループスーパービジョンの実施時には、スーパービジョン一般が持っている機能に加えて、グループスーパービジョンの特質の深い理解が欠かせないが、個別とグループを使い分けながらスーパービジョンを実施している現状が示されている。さらに、グループの設定においてメンバー構成やスーパーバイジーの選択に留意している点、及び、スーパーバイザーとしての役割に対する試行錯誤のもとにスーパービジョンを実施している現状が示されている。

第4点として、認定社会福祉制度におけるグループスーパービジョンへの期待に関して分析を行った。教員グループと現場実践者グループでは、その果たしている役割の傾向が反映された結果が示されていた。すなわち、前者においてはグループスーパービジョンを行う枠組をどのように形成するのかに期待が高く、後者では、どのようなグループスーパービジョンを行うのかという内容への期待が高いことがうかがわれた。

実践方法、手続き方法・しくみの内容の具体化が急務であることが改めて確認されたといえる。また、前者において記述力の向上が挙げられていることは、スーパービジョンの本質であるリフレクション・省察の重要性の指摘でもあると捉えられる。グループスーパービジョンにおいて、メンバー自身やメンバー相互に起きていることについて、振り返りを通して十分な省察を促進できることを保証する枠組が望まれている。また、グループスーパービジョンを行うスーパーバイザーの力量に対して、認定社会福祉士制度におけるスーパービジョンへの期待であると同時に、今後の論点として提示されていた

我が国におけるグループスーパービジョンの先行文献検討に関しては、スーパービジョン一般を含めて検討することを同時並行で行いながら、フォーカスグループの検討から生成された諸論点に基づき、検証を進めている。文献の検索では見出しえなかった現場実践における報告等、さらに、諸外国におけるグループスーパービジョンの先行文献の検証も踏まえることが課題となっている。

以上、本年度の成果を示したが、今後は、認定社会福祉士制度におけるグループスーパービジョンの枠組みとその実際の展開方法について、モデルを構築することが本委員会に課せられた重要な課題である。モデルの構築に関しては、グループスーパービジョンへの理解の深化とスーパーバイザーの養成をなくしては達成することは困難であり、また、具体的な展開方法や各種の書式の検討、モデルの実施とその評価に基づく検証の実施が欠かせない。これらについては、次年度に継続的に検証が深められることが欠かせない。

本研究は、平成 29 年度社会福祉振興・試験センターの社会福祉振興関係調査研究助成金のもとに、実施されたものである。改めて関係者の方々に深く感謝申し上げます。また、研究の実施に当たっては、認定社会福祉士制度におけるスーパービジョンに対して、スーパーバイザーを担い、スーパービジョンに関して、実践現場や、教育・研究において、卓越した見識を有する方たちのご協力により遂行することが可能となった。末尾をお借りして心から感謝申し上げます。

ソーシャルワーク・スーパービジョンの意義は、クライアント、クライアント家族、スーパーバイザー、スーパーバイザー、関係者（関係組織を含む）等、多面的であることに特徴を持つとされる。本研究の成果が、わが国のソーシャルワークの質の向上に寄与し、現場実践に携わりご尽力されている社会福祉士・認定社会福祉士・上級認定社会福祉士の方々、また、ソーシャルワーク教育・研究にご尽力されている研究者の方々の参考になることを願うものである。

認定社会福祉士認定・認証機構
スーパービジョン実施に係る企画運営委員会

認定社会福祉士等の資質向上に資するグループスーパー
ビジョン・モデル構築に関する研究事業 委員名簿

(敬称略、五十音順)

(◎は委員長)

本委員会

氏名	所属
岡田 まり	立命館大学
田村 綾子	聖学院大学
◎野村 豊子	日本福祉大学 認定社会福祉士認証・認定機構理事
藤林 慶子	東洋大学
保正 友子	立正大学
前嶋 弘	社会福祉法人みなと寮
宮崎 清恵	神戸学院大学

ワーキング委員会

氏名	所属
《ワーキング委員会委員》	
◎野村 豊子	日本福祉大学 認定社会福祉士認証・認定機構理事
藤林 慶子	東洋大学
保正 友子	立正大学
《協力者》	
丸山 恵理子	東洋大学
本山 潤一郎	医療法人社団敬和会
山口 友佑	認知症介護研究・研修大府センター

委員会担当事務局

氏名	所属
北村 裕美子	日本社会福祉士会事務局 認定社会福祉士認証・認定機構事務局

公益社団法人 日本社会福祉士会
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 カタオカビル 2階
TEL : 03-3355-6541 FAX : 03-3355-6543
<http://www.jacsw.or.jp/>